

YAっうしん 2022年夏号

通巻第30号

～YAって何?～

YA(ワイエー)とはYoung Adult(ヤングアダルト)の略称です。主に、中学生・高校生を中心とした10代の「子どもでも大人でもない世代」を指した(若い大人)という意味の言葉です。この時期は、体だけでなく心も育つ大切な時期です。読書が一番必要な時期ともいえます。だけど、児童書だと幼すぎるし、一般書だと難しくて読む気にならない…。そんな世代に向けて、和光市図書館には「YA図書」を集めた「YAコーナー」があります！小説や職業、進学、料理、スポーツ、電撃文庫などの人気ライトノベルも！！ぜひ、自分だけの一冊を探しに、図書館に来てみてください。

『YA通信』は、中高生向けの情報を発信していく図書館情報紙です。3月(春)・6月(夏)・9月(秋)・12月(冬)の年4回発行します。今回は課題図書や和光市図書館オススメの1冊を紹介しています。ぜひ読んでくださいね♪



©和光市

図書館の新作漫画

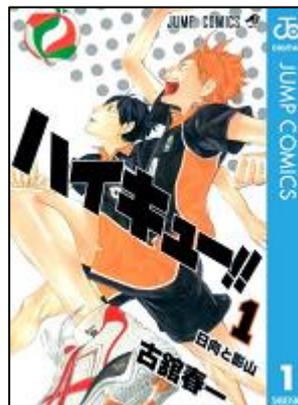
皆様からいただいた「漫画購入希望アンケート」をもとに、子どもから大人まで幅広い年代の方に楽しんでいただける漫画を選びました。ご協力、ありがとうございます！！(カウンターの中の書架に配架しています。ご覧になりたい方はカウンターまで。)



©和光市



清水 茜 著
はたらく細胞
講談社 (全6巻)



古館 春一 著
ハイキュー！！
集英社 (全45巻)



竹宮 恵子 著
テラ
地球へ…
中央公論新社 (全3巻)

令和4年度も「漫画購入希望アンケート」を実施する予定です。「YA通信」でお知らせしますので、ぜひご協力ください。



オ

ス

ス

メ

の

一

冊



本館所蔵のオススメ本①

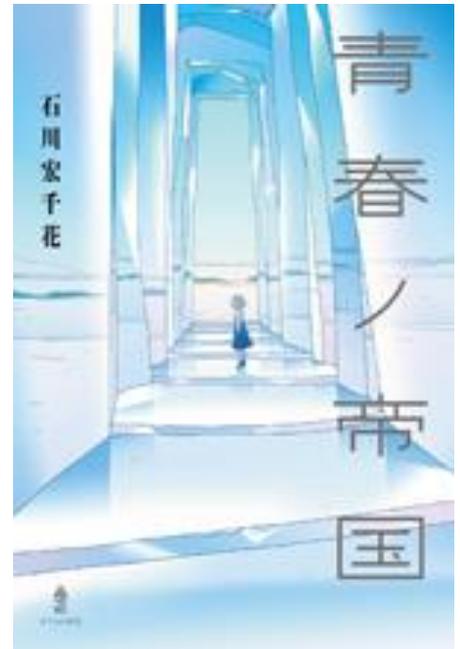
『青春ノ帝国』石川宏千花 // 著

資料コード：12140040 分類：Y913

中学校の教師をしている関口佐紀に、ある日1本の電話がかかってきた。電話の相手は、同級生の奈良くん。叔父の久和寿が亡くなったと言う。久しぶりに聞くその声が、佐紀を14歳だったあの夏の日へと引き戻した…。

坂の上にあった「科学と実験の塾」。この不思議な塾が、14歳の佐紀にとってのたったひとつの希望でした。

主人公の佐紀が塾長の久和先生、助手の百瀬さん、同級生の奈良くんと過ごした青春の物語です。



本館所蔵のオススメ本②

『10代で知っておきたい「同意」の話』

ジャスティン・ハンコック // 文 河出書房新社

資料コード：12144621 分類：Y361

「人生は選択の連続である」と、シェイクスピアが名言を残しています。私たちは毎日、YESかNOを選んで生活しています。様々な選択の積み重ねで、自分の人生が創られていくのです。だからこそ、時々迷う瞬間がありますよね。相手に同調して、ついYESと言ってしまった。やっぱり自分で決めればよかった！って後悔したことありませんか？

この本は、NOと言えないあなたに、主体性をもって同意することの大切さを丁寧に教えてくれます。





オ

ス

ス

メ

の

一

冊



分館所蔵のオススメ本①

『大人を黙らせるインターネットの歩き方』

小木曾 健 // 著 筑摩書房

資料コード：52004623 分類：Y007

「インターネットも SNS も日常だよ」というくらいネット環境を使い慣れているアナタ。

知っていることばかりかと思いますが、試しに読んでみてください。「炎上」「ネットいじめ」「個人情報」「情報モラル」…いろいろ騒がれているインターネット界隈のあれこれに、意外な発見があるかもしれません。



分館所蔵のオススメ本②

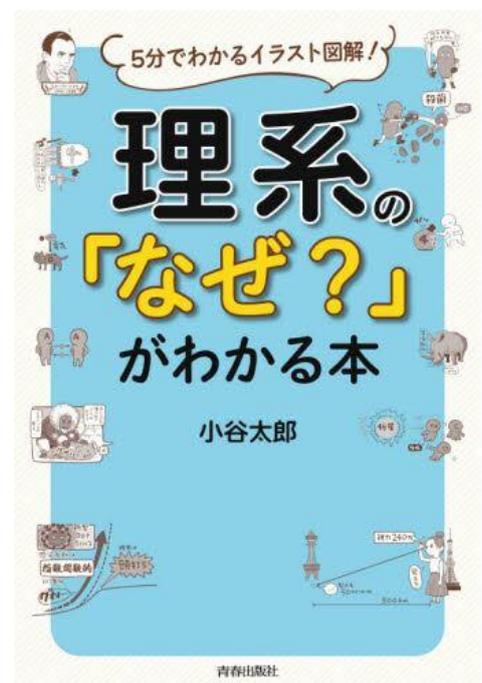
『理系の「なぜ？」がわかる本』

小谷 太郎 // 著 青春出版社

資料コード：51027567 分類：Y404

日常生活でちょっと気になる疑問や不思議、先端科学ニュースで報じられた新発見・新発明まで、広く理系の「なぜ？」を取り上げて、わかりやすく解説！元は中高生対象の記事だから、専門知識がなくても読めるように、一編一編が短く、やさしく、書かれています。

さらに、ポップなイラスト図解付きなので、理系に苦手意識がある人でも楽しめる一冊です。



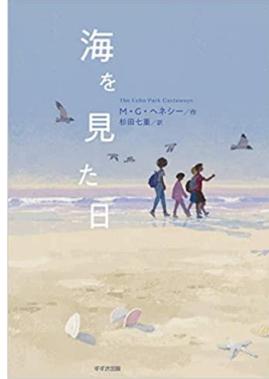
中学生

セカイを科学せよ!
安田 夏菜 // 著 講談社



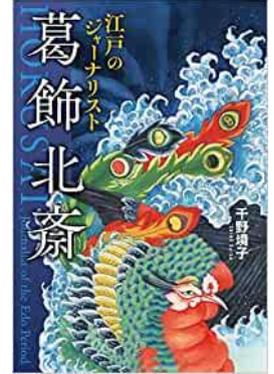
ルーツが日米の蟲好き女子・葉奈。ルーツが日露のミハイル。葉奈とミハイル、そして科学部の面々は、生物班の存続をかけ、学校に活動の成果を示すことに…!? ミックスルーツの中学生が繰り広げるバイオリジカル・コメディ。

海を見た日
M.G.ヘネシー // 作 杉田 七重 // 訳 鈴木出版



きっと世界は、そんなにひどいところじゃない。ロサンゼルス、それぞれの事情で養母の家に預けられた 3 人の里子。みんながバラバラの方向を向いていて、正面切って向き合わない。そこへ新しく自閉症の男の子が仲間入りし…。

江戸のジャーナリスト葛飾北斎
千野 境子 // 著 国土社



90 歳まで絵筆をとった人気浮世絵師・葛飾北斎は、情報の限られた江戸時代に、広く日本の外からも情報を収集した。「人間・北斎」にスポットライトをあて、その魅力や謎を探り、北斎とは何者なのかを解き明かす。

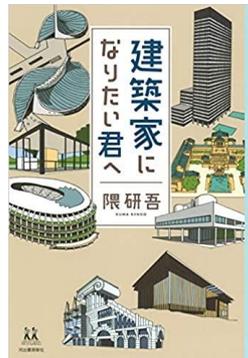
高校生

その扉をたたく音
瀬尾 まいこ // 著 集英社



ミュージシャンへの夢を捨てきれず怠惰な日々を送る宮路は、演奏に訪れた老人ホームで、神がかったサックスの音を耳にする。吹いていたのは介護士・渡部だった。ホームに通い始めた宮路は…。

建築家になりたい君へ
隈 研吾 // 著 河出書房新社



建築物は大きいけれど、その仕事は小さなことの積み重ねでできている。10 歳で建築家を志し、2020 年東京オリンピック会場を手がけた建築家が綴る 10 代へのメッセージ。

クジラの骨と僕らの未来
中村 玄 // 著 理論社



小さな頃から生き物が大好きで、様々な動物を飼っていた著者。中学 2 年生の時、骨格見本に興味を持ち、死んでしまったペットのハムスターの墓あばきを思いつき…。骨からスタートしたクジラ博士の研究航海記。